

平成27年度 大船渡市派遣職員レポート

都市整備部 住宅公園課 朝田 聡

・はじめに

平成27年度から大船渡市へ派遣となりましたが、自分は今回で2回目の派遣となります。1回目の派遣は震災の年の平成23年7月～9月の3ヶ月間、建設課で被災箇所のがれき撤去の現場監督として、現場での仕事に携わってきました。今回で2回目の派遣ということで、正直、再び大船渡市で働く機会があるとは思っていなかったのですが、驚きと、1回目の派遣から4年の月日を経ているということで、あれからどのような様な復興が進んで来たかという気持ちを持ちながら大船渡に来ました。

今回のレポートは平成23年当時と現在との様子を写真等で見比べてみたいと思います。

・4年前と現在の様子

震災の年の平成23年7月から9月に撮影した写真と、今年に撮影した写真をいくつか載せたいと思います。

平成23年7月撮影



平成27年8月撮影



この撮影場所は末崎地区の大田団地という場所でこの団地の先には海があり、津波の被害を受けた場所でもあります。現在はがれき等は撤去され、大田団地の一部の浸水想定区域内の住宅地等は、防集集団移転促進事業等により、近隣の高台等へ移転される計画となっています。現在、大田団地の一部では住宅が建てられない箇所に指定されてもいます。



平成 23 年 7 月撮影



平成 27 年 8 月撮影

この場所は国道から山側へ少し上った箇所、震災時は海から離れているところなのに、津波の影響で船が住宅街へ押し流されている様子で、現在船は撤去され、新しい住宅も立ち並んでいます。



平成 23 年 7 月撮影



平成 27 年 8 月撮影

この場所は大船渡駅近くにある、大船渡プラザホテル周辺の写真です。この周辺は、土地区画整備事業区域となっており、今後は大船渡市の宿泊施設や大規模商店、商業ゾーン、公共交通機関の拠点として、今現在、土地の盛土工事や道路整備等が進められています。

震災から 4 年の月日経ち、現在、大船渡市は復興に向け着実に事業等が進んでいる状況が街中を見てもよくわかります。

現在自分は、住宅公園課で被災された方々が多く住まれる災害公営住宅を建設する箇所の敷地造成工事の現場監督という仕事に携わっており、まだまだ、工事途中や仮設住宅

に住まわれている方々もいまだ 2,820 人と多いのが現状です。しかし、少しずつではありますが、仮設住居の撤去も始まり、大船渡市全体の復興や、個人の再建に向けた動きも多く見受けられました。

現在、大船渡市の災害公営住宅の計画数 26 箇所 801 戸数のうち、完成済みが 10 箇所 244 戸数、平成 27 年度完成予定は 14 箇所 449 戸数となっています。また、完成済みの団地ではすでに入居が始まっており、新しい団地では新生活準備の参考にってもらうため、内覧会等を開いて入居者の対応をしている状況です。

今回のレポートではこのような仮設住宅・災害公営住宅などの状況や、現在の仕事内容等を詳しく書きたいと思います。